

教育班だより

2月号

気仙沼教育事務所HP <https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/mskyoz/>

【小・中学校教育の指導の重点】

- 重点1 感性豊かな心とたくましい心身の育成
- 重点2 確かな学力の育成
- 重点3 家庭・地域と連携・協働した
誰一人取り残さない学校づくりの推進

2月10日（火）、気仙沼中学校での「管内算数・数学科授業づくり研修会」を実施し、今年度全ての教育班学校教育担当主管研修事業等を終えることができました。

会場や授業の提供を快く承諾していただいた校長先生方をはじめ、御協力いただいた先生方に感謝申し上げます。

アンケート等には、研修内容を指導に生かしたいとのコメントがありました。一方、日々の教育活動で、研修内容を生かしきれないという葛藤もあるようです。児童生徒のために生かそうとする姿勢が大きな一歩につながります。梅が寒さに耐え忍びながら気品ある花を咲かせるように、日々の教育活動にじっくりと取り組み、児童生徒の笑顔が見られるように努めていきましょう。

副参事（副班長・指導主事）櫻井 直人

今月の花「梅」



花言葉
「気品」
「忍耐」

令和7年度「指導概況報告書」を御活用ください！

今年度の管内教育の現状と成果、課題をまとめた「指導概況報告書」を公表しました。

本報告書は、幼稚園、小・中学校における指導の重点項目に基づき、本年度の取組を詳しく分析したものです。今回の大きな特徴として、今年度から変更された「伴走支援型訪問」を含む学校訪問アンケートの結果を詳細に公開しています。指導主事による継続的な支援が授業改善への意欲向上に繋がった事例が豊富に掲載されています。また、各教科等の「参考にしたい事例」や「授業改善に向けた具体的な視点」も網羅されており、日々の教材研究や校内研修に直結する内容となっています。

次年度の教育課程編成や校内研究の計画に向けて、本報告書をぜひ指導の改善等に御活用ください。

□気仙沼教育事務所HP 指導概況報告書・管内の教育

<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/mskyoz/kannnaihakkouji.html>



宮城県気仙沼教育事務所

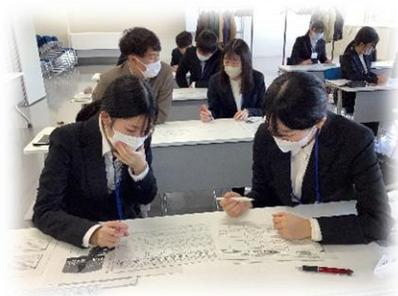
12/9（火）初任者研修（1年目）教育事務所研修4

12月9日（火）、気仙沼合同庁舎にて今年度最後となる初任者（1年目）の教育事務所研修4を実施しました。当日は、「道徳科における教材と教材分析」「特別な配慮を要する児童生徒への支援」「『気になることも』の理解と対応」について、講義や演習を行いました。また、グループ協議では「午前中の研修の振り返り」や「初任者研修（1年目）を終えて」をテーマに、今年度の成果と課題を共有しました。

受講した先生方は、講義や演習を通して児童生徒一人一人に寄り添う指導の在り方を再確認するとともに、協議では互いの実践を語り合うことで、2年目に向けた意欲を高めている様子が見られました。

【事後アンケートより】

- ・道徳科の教材分析の視点を学び、ねらいとする価値に迫るための発問や展開の工夫について具体的に考えることができた。
- ・特別な配慮が必要な児童生徒に対し、まずはその子の特性や背景を正しく理解し、「困り感」に寄り添う姿勢が大切だと再認識した。
- ・1年間の実践を振り返り、同期の仲間と悩みを共有できたことが大きな励みになった。来年度はさらに視野を広げ、子供たちと共に成長していきたい。



1/19 (金) 第1回管内教科等指導力向上研修会 (数学科) 気仙沼市立唐桑中学校

本研修会は、指導主事と学力向上指導員との協働による授業づくりや授業参観を通じ、指導方法の工夫・改善と教員の資質向上を図ることを目的としています。当日は、三浦茂教諭が第1学年「比例と反比例の利用」の授業を公開しました。本単元では「生徒に必要感を持たせること」を授業づくりのポイントとし、タブレット端末を活用して生徒自身が学習状況を発信するなど、主体的な学びを促す工夫が随所に見られました。

事後アンケートでは、「教員が日常的に学び合う機会や、環境の大切さについて考えさせられた」「スプレッドシートの活用が参考になった」等の感想が寄せられました。また、「自分の取組を客観的に見つめ直せた」「小・中学校のつながりや基礎の大切さを痛感した」といった声もあり、校種を超えた協議を通して、多角的な視点から授業改善を考える充実した研修となりました。



1/20 (火) 第2回管内教科等指導力向上研修会 (国語科) 南三陸町立志津川小学校

南三陸町立志津川小学校を会場に、渡邊一磨教諭による第5学年「ロボットとの未来について考えよう」の授業公開を行いました。本授業では、「弱いロボット」を題材に、複数の文章を比較検討することで、物事を多角的に捉え、自分の考えを広げ深めることを目指しました。授業では、子供たちが互いの考えを尊重し合い、対話を通して主体的に思考を深めていく姿が見られました。その後の研究協議では小・中学校の枠を超え、児童の思考に寄り添う指導の在り方や、対話的な学びを促すための教師の手立てについて、活発な意見交換が行われました。



参加者からは、「義務教育9年間を見据えた、小・中学校の学びの連続性の重要性を改めて実感した」「対話を活性化させるための具体的な手立てや、教師の言葉掛けが大変参考になった」「子供たちが主体的に課題に向き合い、生き生きと学ぶ姿に刺激を受けた」といった感想が多数寄せられました。校種を超えて授業づくりについて語り合うことで、日々の実践を見つめ直し、指導力向上への意欲を高める実りある研修会となりました。

1/27 (火) 初任者研修 (2年目) 教育事務所研修3

1月27日に、気仙沼合同庁舎を会場に、今年度最後となる2年目教員の教育事務所研修3を実施しました。当日は、管内の小・中学校から16名の先生方が参加し、「授業づくり・授業力向上」をテーマに、この1年間取り組んできた課題研究の成果と課題について発表を行いました。3つの分科会に分かれ、校種や教科の枠を超えて互いの実践から学び合う、熱気あふれる研修となりました。

事後アンケートでは、「課題を改善するための手立てを実践し、検証するサイクルが、教師自身の学びと子供の学びを充実させることにつながると再確認した」「他校種・他教科の取組から、授業展開や意欲付けのヒントを多く得られた」「子供の実態に合わせた発問や『問い返し』の重要性を学んだ」といった記述が見られました。また、「他の先生方の熱意に刺激を受けた」「今後も研鑽に励みたい」といった、教師としての成長に向けた前向きな感想が多く寄せられました。

閉講式では、受講者を代表して気仙沼市立津谷中学校の澁谷直樹先生が、2年間の研修で得た学びと、次年度に向けた決意を力強く述べました。来年度は、初任者研修の集大成となる3年目を迎えます。これまでの研修で学んだことを生かし、日々の授業改善を積み重ねるとともに、子供たちの「分かった」「できた」を支える教師として、更なる飛躍を期待しています。

